

I. 病院の概要

2019年4月～2020年3月

1. 概要

■名称

医療生協さいたま生活協同組合 埼玉協同病院

■所在地

埼玉県川口市木曾呂1317(〒333-0831)

TEL:048-296-4771

FAX:048-296-7182

ホームページ:http://kyoudou-hp.com/

■開設年月日 1978年4月1日

■2019年度実績(全体)

外来延患者数	272,364人
1日平均外来患者数	970.0人
救急搬送受入れ件数	4,008件
新入院患者数	8,632人
在院患者延数	106,330人
平均在院日数(一般)	11.1日
病床稼働率(一般)	78.0%
紹介患者率	19.5%
逆紹介患者率	26.0%

■標榜科

内科	リハビリテーション科
循環器内科	病理診断科
呼吸器内科	リウマチ科
消化器内科	臨床検査科
緩和ケア科	腎臓内科
神経内科	血液内科
小児科	糖尿病内科
外科	救急科
呼吸器外科	泌尿器科(人工透析)
消化器外科	緩和ケア外科
乳腺外科	
整形外科	
脳神経外科	
産婦人科	◇専門外来
泌尿器科	甲状腺外来
皮膚科	被爆外来
眼科	禁煙外来
耳鼻咽喉科	在宅医療
精神科	
放射線科	
麻酔科	

■病床数 399床

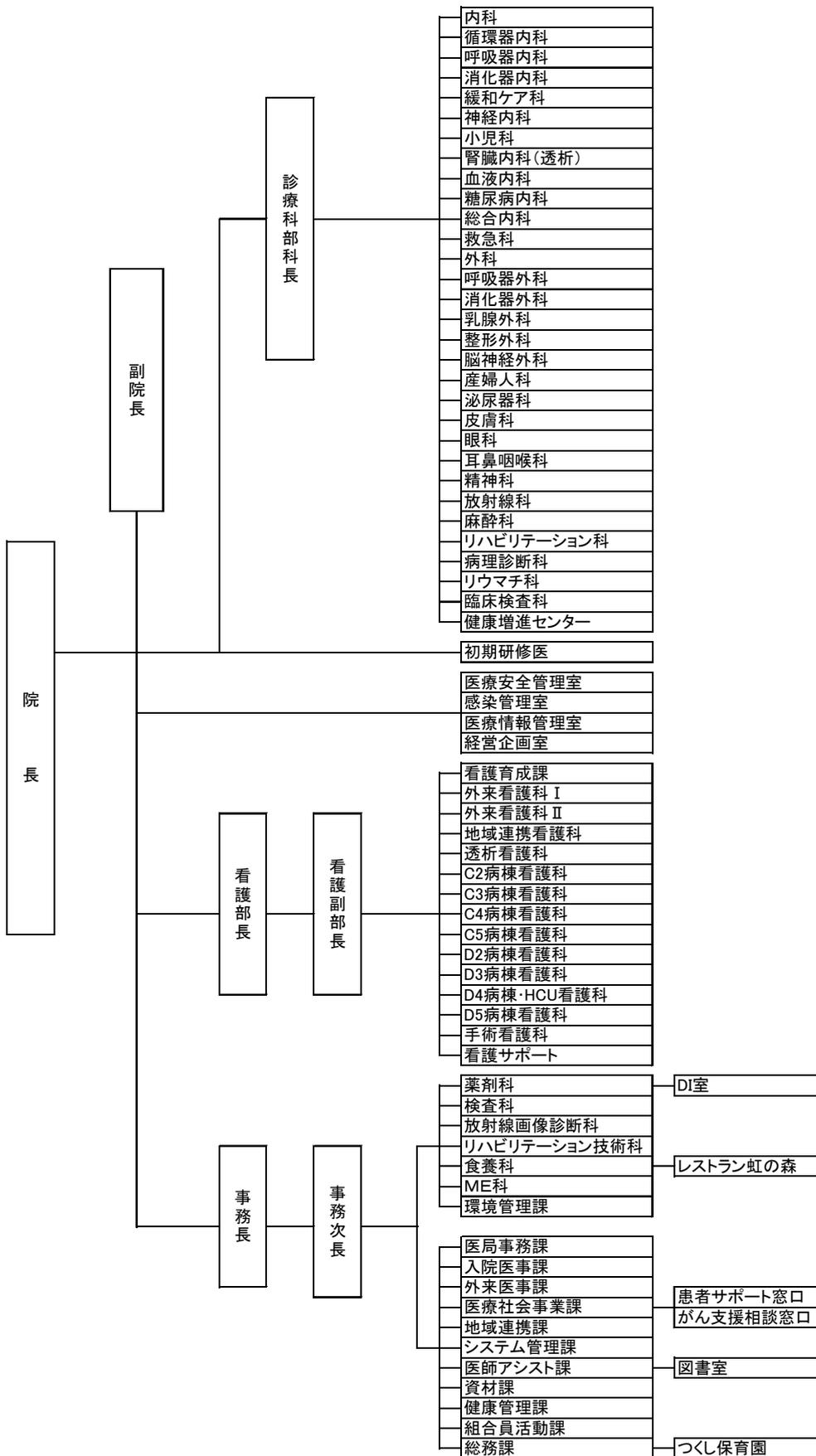
病棟	病床数	診療科等
C2	60	消化器内科、一般内科、耳鼻咽喉科
C3	40	産婦人科
C31	13	小児科
C4	24	(緩和ケア病棟)
C5	50	呼吸器内科、泌尿器科、糖尿病内科
D2	57	整形外科
D3	55	外科、整形外科
D4	46	循環器内科、腎臓内科、総合内科、眼科
HCU	4	
D5	50	(回復期リハビリ病棟)

■職員数 1,198名

職種	常勤・嘱託	非常勤
医師	72	219
研修医(初期・後期)	15	-
看護師	217	78
助産師	22	7
保健師	42	8
准看護師	4	12
看護サポート	6	42
薬剤師	26	1
臨床検査技師	24	8
理学療法士	30	-
作業療法士	22	-
言語聴覚士	6	-
視能訓練士	3	1
歯科衛生士	2	-
診療放射線技師	24	2
臨床工学技士	13	-
管理栄養士	12	4
栄養士	1	-
調理師	12	5
調理員	-	24
介護福祉士	9	-
事務	78	125
保育士	-	14
技師・助手	-	8
計	640	558

(2020年3月末日現在)

2. 組織機構図



3. 2019年度事業所スコアカード

	戦略目標	重要成功要因	評価指標
強い医療生協を作る視点(F)	病院のリニューアルを成功させるために、黒字経営を維持する。	必要剰余を確保する。	<ul style="list-style-type: none"> ・経常剰余 ・一般病棟入院数 ・回復期リハ病棟稼働率 ・緩和ケア病棟稼働率 ・平均在院日数 ・入院日当点 ・外来日当点 ・紹介からの手術件数(大腸がん、乳がん) ・紹介からの手術件数(人工股・膝関節手術) ・がん拠点病院加算 ・DPC(Ⅰ)(Ⅱ)での退院割合
利用者の要望の視点(C)	住み慣れたまちで生活し続ける上での不安や悩みについて助言を受け、より充実した生活を送る事が出来る。	予防から治療まで、お金や生活の問題を解決できる。	<ul style="list-style-type: none"> ・救急車要請お断り件数 ・お断り事例の検討件数 ・患者満足度(入院、外来、在宅、健診) ・当院主催の健康教育講座の受講者数 ・患者を医療生協の活動や資源につなげた数 ・治療目的で他院へ紹介したがん患者数 ・がん患者の就労支援の件数 ・がん検診でD判定以上の再検者数
確かな仕事づくりの視点(P)	職員一人一人のやりがいや成長を大切にしながら、より効率的で、標準的な質の高い医療サービスを提供する。	各専門職能を発揮し、チームの力を最大限活用した医療サービスを展開し、治療効果を上げる。	<ul style="list-style-type: none"> ・日勤帯の手術室稼働率/緊急手術対応件数 ・クリパス適応率 ・紹介率 ・逆紹介率(紹介院所数) ・多職種が参加したキャンサーボード開催数(医師2名以上、他3職種が参加したもの) ・リハビリアウトカム指標 ・栄養改善指標(3日以上絶食者を減らす) ・栄養改善指標(リハビリ栄養の指標) ・薬剤総合評価加算 ・身体抑制率 ・挿管患者の抜管率 ・小児虐待チームが行政機関と行ったカンファレンス数 ・労災事故申請数(針刺し)
育ちあいの視点(E)	病院理念を軸に職員教育を行い、総合力と専門力量を高めた職員集団をつくる。	健康意識、人権意識の高い組織に成長する。	<ul style="list-style-type: none"> ・理念教育の開催数/理解度 ・ブックレット読了者数/理解度 ・患者宅に個別訪問した職員数(実人数) ・職員満足度調査 ・退職者数(必要獲得数に対する割合)
社会貢献の視点	予期せぬ災害に備え、地域で頼りになる災害拠点病院の指定取得を目指す。	指定取得に向けた準備を確実に行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・要件に必要な職員育成・教育 ・要件に必要な施設整備 ・CO2排出量(目標値より下回る)

ミッション	人を人として尊重し、地域包括ケア時代に輝く急性期病院になる ～病院のリニューアルを成功させる(準備する)～
ビジョン	①救急医療・がん医療を軸に急性期病院としての医療機能と質を高める。 ②総合性と専門性を備えた医療専門職が集い、育つ病院となる。 ③ヘルスリテラシーを高める活動とともに、健康の社会的決定要因(SDH)の視点を日常診療にいかした生活支援を行う。 ④4つのセンターを中心に、各医療チームの活動が発展する組織運営を行う。

評価指標の定義と算出部門	2018年度現状値	2019年度目標値
経営委員会報告書	10,398,458千円	10,563,854千円
経営委員会報告書	693.5件	720件
経営委員会報告書	92.20%	95%
経営委員会報告書	67.80%	70%
経営委員会報告書	累計実績 11.3日	11.3日以下
経営委員会報告書	6,417点	6,681点
経営委員会報告書	1,134点	1,162点
がん診療委員会報告書	2019年度新規指標	2018年度患者数を超える
総合サポートセンター報告書	2019年度新規指標	2018年度患者数を超える
経営委員会報告書	16件/月	20件/月
経営委員会報告書	一か月当たり 72.6%	一か月当たり 75%越え
救急診療委員会報告書	2,074件/年間	1,900件/年間以下
救急診療委員会報告書	10例/年間	24例/年間
QMセンター、健康管理課	—	各分野で着目した指標の改善
HPH推進センター会議報告書	2019年度新規指標	2018年度講座数を超える
組合員活動課 報告	2019年度新規指標	40名以上
地域連携課月報	2019年度新規指標	2018年度の数を下回る
総合サポートセンター報告書	2019年度新規指標	62件以上
健康増進センター会議報告書	2019年度新規指標	
手術室運営委員会報告書	時間内稼働率 50.4% 緊急手術対応件数331件	時間内稼働率 50%以上
クリパス委員会報告書	45.70%	50%以上
地域連携課月報	19.90%	40%
地域連携課月報	18.60%	30%
がん化学療法チーム報告書	2019年度新規指標	年間12例
D5病棟月報		37以上
食養科月報		月10件を下回る
食養科月報	2019年度新規指標	上半期の内に指標設定
薬剤科月報	27件/月	30件/月
認知症ケアチーム報告書	31%/月	30%以下
RSTチーム報告書	2019年度新規指標	上半期の内に指標設定
小児虐待チーム報告書		
医療安全委員会報告書	22件/年間	20件/年間
教育研修センター月報		
教育研修センター月報	2019年度新規指標	常勤職員全員読了
算出する部門を決める必要あり		
QMセンターまとめ		昨年数値を越える
総務課		2018年度退職者数を下回る
防災対策委員会報告書		
防災対策委員会報告書		
省エネ推進事務局会議報告書		基準値を下回る

4. 2019年度活動報告

1. 埼玉協同病院の建設基本構想の決定

6月22日に開催された医療生協さいたまの通常総代会において、「埼玉協同病院のリニューアルおよび在宅療養支援病院建設基本構想」が採択されました。1978年の開院以来40年余が経過し、老朽化や使いにくさ、医療安全や感染対策上のさまざまな施設的な課題を解決するために、現地での建替計画となります。基本コンセプトは、「地域包括ケア時代に輝く病院になる」ということです。

建設構想の決定を受けて、9月28日に第1回建設委員会総会を開催し、設計施工業者の選考基準と選考委員を承認し、10月26日には業者を選考するためのプレゼンテーションが行われました。第2回建設委員会総会での検討を踏まえて、11月26日の法人理事会において、建設業者を竹中工務店に決定しました。年明けから基本設計にむけた検討が始まっています。

2. 春の新規入職者受入れと職員研修

(1)4月1日、法人全体の新入職員の入職式を催し、引き続き2日間の入職時研修を行いました。4月3日から埼玉協同病院に配属された新入職員は63名です。初期研修医師8名(定数フルマッチ)、薬剤師1名、保健師4名、助産師2名、看護師27名、診療放射線技師4名、臨床検査技師3名、臨床工学技士2名、理学療法士2名、作業療法士3名、管理栄養士2名、社会福祉士2名、事務総合職3名です。また、既卒の医師5名(内科2名、外科1名、皮膚科1名、整形外科1名)を迎えるとともに、外部出向研修から整形外科医師が帰任しました。

(2)看護職員の新入職員研修は、入職時オリエンテーション、技術トレーニングに続いてグループに分かれて看護職場を順番に1、2日間ずつ体験就労します。その後、5月21日に所属職場の辞令交付式が行われました。入職後7週間の集合研修・ローテーション研修を終えて、辞令を受け取った一人一人がスピーチをしました。その後、看護長に引率されて配属職場でのオリエンテーションに向かいました。

(3)9月と12月に、看護部の副主任研修会が行われました。前半は労務管理や副主任の役割、コミュニケーションについての基礎研修、後半は外国人の医療問題や小児虐待、老々介護について制度や歴史的背景を調べ改めて問題を深くとらえる学習に取り組みました。さらに、仕事の場面で感じる感情を客観的に見つめることで、自分たちの看護観を振り返り深める学習に取り組みました。

(4)10月10日と29日に、キャリアナース研修会という名称で、埼玉協同病院に中途で入職した経験のある看護職むけの研

修会を実施しました。「民医連医療と看護」の講義と「育成」に関するお話の後、認定看護師から「高齢者の皮膚トラブルとスキンケア」を実践的に学びました。

(5)1月8日・9日・14日に技術部門名と事務部門の卒1他部門研修に取り組みました。入職からほぼ9ヶ月が経過しある程度自職場の仕事に慣れてきたところで、病棟での看護職の仕事を経験することで、チーム医療の理解促進を図ることが目的です。同じように、12月～1月にかけて6回に渡って看護部門の卒1他部門研修に取り組みました。看護職員は技術部門と事務部門の職場をローテーションで体験して、それぞれの仕事内容について体験を通して理解し、医療連携の基本を学びました。

(6)2月10日に、埼玉協同病院配属の1年目看護職員29名が参加してシミュレーション研修を実施しました。シミュレータ(模擬患者)を使用し、複数の患者さんの状態や環境整備の確認など多重課題への対応訓練に取り組みました。

3. 埼玉協同病院のヘルスプロモーション

(1)4月8日、WHO世界保健デーに合わせた企画をアリオ川口で開催しました。今年は初めての試みとして握力・開眼片立ち・指輪つかテストの3種類を「フレイルチェック」として行い、午前・午後合わせて182名が参加しました。骨密度測定と合わせた結果をもとに医師・保健師・看護師が健康相談、管理栄養士が栄養・食事相談を担当しました。川口市保健センターから保健師さんが川口市健康診断のお知らせと「フレイルチェック」相談にも対応していただきました。

(2)5月31日はWHOが呼びかける世界禁煙デーの取り組みとして、イオンモール川口前川店でイベントを開催しました。川口市国民健康保険課の保健師2名にも参加いただき、体力測定(フレイルチェック)・骨密度、健康相談を行い174名の方が参加しました。

(3)8月22日には東浦和駅前健康相談会を医師14名を始めとする29名で取り組みました。1時間ほどで寄せられた相談は27件でした。若くても健診を受けていない方や高血圧の方が少なくなく、ストレスや痛みなどの不安を抱えている相談がありました。

(4)8月3日、夏休み公開講座として「いのちの授業」を学童の部、思春期の部の2部にわたり開催しました。学童編には13組の親子(大人13人、子ども20人)、思春期編には学童編に参加した内の6組の親子(大人6人、子ども7人)が参加しました。

(5)9月20日・21日の両日、病院近隣の集合住宅を対象に「お元気ですか訪問&なんでも相談会」に取り組みました。20日は職員46名、組合員3名、町会7名の計56名、21日は職員38名、組合員2名、町会5名の計45名、総計101名の参加で、相談は23件ありました。バザーやふれあい喫茶、無料の尿チェックを行うことを事前に町会の回覧でご案内しました。相談会にむけて職員は事前学習会を開催しました。

(6)11月2日には、世界糖尿病週間のイベントとしてイオンモール川口前川にて『糖尿病イベント2019～血糖ってなあに？～』を開催しました。当日は、20代から80代の老若男女を問わず、親子や家族連れで足を運んでくださり、来場者が115名となりました。

(7)11月13日、来院された方へ禁煙、受動喫煙に関する理解を深めてもらうことを目的に、『タバコをやめたい、やめさせたい！そう思った今がチャンス！』をスローガンに、禁煙イベントを実施しました。20代から90代まで幅広い世代の方30名が参加され、スモーカーライザー体験、禁煙、健康相談を行いました。

(8)11月にSDHカンファレンスを開催し病棟での事例を通して検討を深めました。SDH(Social Determinants of Health)とは、「健康の社会的決定要因」と訳されます。健康を阻害する要因を分析し、健康格差や貧困、社会的不利益に影響を受ける人々の問題を解決するアプローチを検討するものです。このカンファレンスを通じて参加者は、ヘルスプロモーションの視点での患者への介入が重要であることを改めて確認しています。

(9)11月28日、「小児虐待について考える」学習会を開催しました。埼玉県南児童相談所の児童福祉司林田昂介氏を講師に迎え、各職種49名が児童相談所の取り組みや対応について学びました。

(10)12月7日に耳鼻咽喉科越智篤部長による加齢性難聴の学習講演会を開催し、組合員77名が参加しました。

(11)1月26日には、2016年から始まった外国人無料医療相談会に今年も取り組みました。健診受診者は87名で、健康診断と併せて取り組まれた弁護士と社会福祉士による相談会には21件の相談でした。集まったボランティアは、医師、通訳など78人でした。関東近隣の済生会病院さんの社会福祉士が10名以上参加しました。

(12)2月2日、加須市において双葉町から委託された甲状腺エコー健診を実施しました。昨年と同数の44名が受診しましたが、震災から9年が経過し申込者数が年々減ってきています。

4. 医療の質向上をめざして

(1)4月20日に緩和ケア研修会を開催し、院外からの8名を含む20名の医師、コメディカル17名が参加しました。今回より、eラーニングで事前学習を行い、グループワークで事例検討(がんの患者さんの在宅療養支援に必要なアセスメントとケアプランの作成など)、ロールプレイではバッドニュースの伝え方や傾聴など、臨床場面で役立つ研修内容に変更した新形式で開催しました。

(2)5月17日には、認知症ケアチームと倫理委員会の共催で『認知症患者に適切なケアを行うために～ユマニチュードの考え方の紹介』という学習会を開催しました。「ユマニチュード」とは、フランス語で「人間らしさ」を意味すると言われ、対象となる方の「人間らしさ」を尊重した一人ひとりに応じたケアをする考え方と実践(技術)のことです。今回は66名の職員が参加して、学習と演習に取り組みました。

(3)6月7日には、京都府立医科大学・救急医療学教室の太田凡教授をお招きして「救急医療はセーフティネット～I LOVE 救急～」をテーマに講演会を開催しました。市内全域から川口市消防局の消防隊員38名、木曾呂小学校から2名、当院の医師25名を含む計120名余が参加しました。

(4)6月28日と11月22日に片山充哉先生(国立病院機構東京医療センター総合内科)を迎えて、内科病棟回診とカンファレンスを開催したり、感染症の鑑別診断のレクチャーを受けました。初期研修医、専攻医、指導医、保健師が参加し、前半は病棟で回診をしながら学び、後半は細菌検査室にてグラム染色を実践しながらレクチャーを受けました。鑑別診断のワークショップに取り組むなどたいへん実践的な学びとなりました。

(5)8月26日、がん化学療法チーム主催で、聖マリアンナ大学臨床腫瘍学砂川優准教授を講師に迎え、がん薬物療法学習会を開催しました。医師11人を含む41名の参加でした。

(6)9月30日と12月9日・12日には、プライマリ・ケア講習会として東京大学医学系研究科医学教育国際研究センター大西弘高医師にお越しいただき、①医学教育初学者向けレクチャー、②専攻医が診た外来症例のカルテレビューを行いました。初期研修医、専攻医、指導医などが参加し、医療面接や外来研修の評価・指導方法について学びました。

(7)5月に青木中央クリニック、8月には益子病院に伺い医療安全相互評価カンファレンスを行いました。当院からは医療安全管理者の副院長と看護師、薬剤師や理学療法士が参加しました。昨年からの取り組みで、地域の医療機関同士で相互に訪問し医療安全の取組を見させていただくことで地域の医療安全のレベルアップを図ることが目的です。

11月は埼玉協同病院に、益子病院の医療安全管理委員長である医師のほか、薬剤師、看護師、診療放射線技師、理学療法士、臨床工学技士、臨床検査技師と多職種みなさんが来院され、院内ラウンドでは「問題点の指摘」にとどまらず、お互いの業務の運用方法や交流がされました。

(8)10月31日、「第36回地域医療懇談会」を開催しました。今回から1医療機関3名までとさせていただきますが59医療機関(行政や包括支援センター含む)98名の医師、看護師、薬剤師、相談員、地域連携担当者の方々にお越し頂きました。当院からは、医師36名と管理含め職員53名が参加しました。7医療機関が今回初めての出席でした。

(9)2月7日、埼玉協同病院において南部地域感染防止対策地域連携の会合同カンファレンスを開催しました。14病院から51名の医師、看護職、薬剤師、検査技師など医療従事者とともに埼玉県南部保健所、川口市保健所、特別養護老人ホーム、老人保健施設からも参加があり、総勢63名のカンファレンスとなりました。議題とした「薬剤耐性対策アクションプランの取り組み・評価」について話し合うとともに、新型コロナウイルス感染症対策について保健所を交えた情報交換を行いました。

(10)2月15日に昨年に続いて2回目となる「医療活動交流集会」を開催しました。103名が参加し、51の演題の報告を受け意見交換をしました。各委員会、チーム、部門が行った取り組みを職種や役割に関わりなく共有し、院内全体に水平展開したり、次年度の医療活動や個人目標のヒントを得ることができました。

5. これからの医療人を育てる取り組み

(1)7月5日、さいたま市立浦和高等学校の医療ゼミに埼玉協同病院の医師、臨床検査技師とさいわい診療所の看護師(市立浦和高校卒)が講師として参加しました。「看護師になりたい気持ちが強くなった」などの感想が寄せられました。

(2)夏の薬剤師一日体験は、4回実施して3つの高校から16名の参加でした。薬剤師の仕事は調剤だけでなく狭く考えていたようですが、いろいろな役割を果たしていることを知ってもらうことができました。無菌製剤室での抗がん剤の調製が印象に残ったようです。

(3)今年の高校生看護1日体験は、7月から8月にかけて計7回開催、264名が参加しました。その中には、同じ高校限定の日や男子高校生限定日を設けたことで多様なニーズに対応することができました。8月24日と10月5日には、看護学校入試模擬面接会を開催し、100名近くの参加がありました。面接対策動画を観たり、「身だしなみチェックリスト」「面接対策マ

ニユアル」を参考資料として提供しました。4名の看護奨学生がボランティアとして参加して、高校生の緊張をほぐすような声掛けをしたり、受験期の体験を話してくれました。高校生も適度な緊張で面接に臨めた様子でした。

(4)12月21日には、医学部進学を目指す高校生向けの入試模擬面接会を開催しました。医学生と医学生生活について懇談する時間もあり、「緊張感も持てて、気付きもたくさん発見できたので今日はとても良い機会となりました」「先輩からの話はとても有益だった」との感想をいただきました。

(5)11月に川口市立北中学校、1月に川口市立戸塚西中学校の生徒さん7名が、「夢わーく体験事業」で当院の職場体験に取り組みました。今回参加した7名のうち、お母さんが看護師という方が2名、将来助産師を志望している方が1名など、全員が医療に興味関心を持つ中学生だったこともあり、熱心に体験や講義を受講されました。

6. 救急救命訓練と災害対策

(1)7月17日は前期総合防災訓練を実施し69名が参加しました。日中に地震、火災が発生する想定で報告、消火、避難誘導訓練について実施しました。今年の特徴は、職場ごとに事前に作成した緊急時アクションカードを使用して訓練を行ったことで、より実践に近いシミュレーションに取り組みました。

1月29日には後期総合防災訓練に取り組みました。夜間に火災発生を想定して、シナリオは最低限しか作成しませんでした。避難させる職員もストレッチャーやシーツをうまく使用しながら行い、スムーズに対応できていました。

(2)9月14日、日本救急医学会認定ICLS(Immediate Cardiac Life Support)講習会を開催しました。4名の研修医と6名の看護職、1名の臨床工学技士が受講し修了証を受けました。同日、神根消防署と川口北消防のはしご車の乗り入れ・確認作業を実施しました。正面ロータリー内に駐車したはしご車からD館屋上とF館屋上へのアプローチが可能かどうかを確認しました。

翌日の15日には、4回目となる日本内科学会認定内科救急・ICLS講習会(JMECC)を開催しました。指導体制として、外部から7名の医師と当院の医師、看護師が当たりました。当院の後期・初期研修医7名と指導医1名、石川県などから参加した3名の医師、計12名が受講しました。

(3)10月12日、台風19号に対して特別警報が出され河川の氾濫、越水が埼玉県内各地で起こり広範囲な地域で被害が発生しました。当院では前日に対策会議を開催し、職員の出勤時の安全確保、注意喚起、事前対策などの手立てをとりました。当日は当院に避難されてきた患者や住民の方もいました。土曜日であったため様々な企画が準備されていましたが中止

となっています。

(4)10月26日、坂戸市からの要請をうけて、台風19号の被害を受けた住民への被災者支援ボランティアに 当院のリハビリスタッフ2名、放射線技師2名が本部からの2名とともに参加しました。河川敷の2m50cmもの泥水に浸かった工場が原状復帰のための洗浄を行ってきました。

(5)10月19日に、トリアージ訓練を実施しました。トリアージ訓練とは、限られた人的物的資源で最大多数の傷病者に最善の医療を施すため、患者の緊急度と重症度により治療優先度を決める訓練です。今回の参加者は75名でした。参加者の内訳は、医師8名、看護部30名、技術部14名、事務部6名、本部1名、看護学生2名、防災対策委員ほか14名でした。今年の患者役は簡単な傷のメイクをすることで少しでもリアルな訓練を目指しました。

7. 2019 年度の特徴的な取り組み

(1)11月30日、埼玉協同病院では初めてとなる医療生協に新たに加入した組合員むけのウェルカムパーティ企画を開催しました。病院の見学会では、当院が診療で大切にしている「マイかるて」「患者メモ」等の説明や総合サポートセンターをはじめ「日頃自分が受診して利用している事」以外の色々な情報に感激され、「他にもいろいろと知りたい」「また開いてほしい」との要望も出されました。地域での医療生協の活動のご案内にも興味を持たれ、健康ひろばに3名の方が見学を希望されました。

(2)1年間に6回にわたる連続講座で、職員対象の「勇気づけの子育てセミナー」をつくし保育所(院内保育)が主催して開催しました。医師、看護職、技術職、事務など多職種の参加があり、グループに分かれて体験学習を組み入れながら、和気あいあいとした雰囲気の中で学ぶことができました。「どんな言葉をかけられると嬉しいか」など話し合いながら、親と子どもとの関係づくりについて学びました。

(3)10連休となったゴールデンウィークは、4月30日、5月1日・2日を通常診療としました。しかし、保育園や小学校、学童保育が休むため、お子さんの手配ができない職員のために特別保育を行いました。3日間で、0-2歳児は院内保育所でのべ38名を預かり、3-5歳児は民間保育園のこぐま保育園さんにご協力をいただきのべ32名を預かり、学齢期のお子さんはみぬま広場で組合員ボランティアさん等をお願いして臨時の学童保育でのべ10名を預かりました。3日間とも安全に無事過ごすことができました。

(4)2019年の年末から新型コロナ感染症が広がり大きな問題となっています。今年も医療懇談会を支部ごとに開催し、今回

は、診療場面のDVDを上映してイメージを膨らませながら話し合うことができましたが、残念ながら2月後半からの開催予定の支部では中止とさせていただきます。

政府による「緊急事態宣言」の前から埼玉協同病院では、川口市、医師会、保健所等と協力して対応にあたりました。一方で、マスクや手指消毒剤等の衛生材料が不足するなか、使用方法を抑制的にしつつも感染防止に十分留意して職員の安全確保と感染対策防止に努力してきました。また、こんな時でも患者、組合員さんが健康維持に取り組める内容のページを「新型コロナに負けるな！」プロジェクトとして病院のホームページにアップし、NHKラジオで取り上げられました。

8. 2019 年度の決算結果

2019年度の決算結果は、3月に新型コロナ感染症の影響を受け予算には3,200万円ほど届きませんでしたが、前年を2,700万円上回る1億3,900万円の経常剰余(黒字)を確保することができました。入院、外来、健診ほか収益各項目で前年を大きく上回る増収とすることができました。その結果、事業収益全体で前年比2億4,000万円の増収となり、予算を6,900万円超過することができました。費用も前年比2億円ほど増加しましたが、昨年度に続き増収増益とすることができませんでした。

5. 主要行事

■2019年

<4月>

- 1日 法人全体 新入職員入職式
- 3日 埼玉協同病院 新入職員入職式
オリエンテーション
- 8日 WHO世界保健デー「フレイルチェック」活動
- 20日 緩和ケア研修会
- 30日 休日当番医

<5月>

- 17日 認知症患者に適切なケアを行うために～ユマニ
チュードの考え方の紹介」学習会
- 21日 埼玉協同病院看護部 所属職場の辞令交付式
- 28日 医療安全相互評価カンファレンス
- 31日 WHO世界禁煙デー「フレイルチェック」活動

<6月>

- 7日 救急医療学習会
- 20日 県立川口北高等学校救急講習会
- 25日 ボランティア学校
- 28日 内科病棟回診&カンファレンス①

<7月>

- 5日 さいたま市立浦和高等学校・医療ゼミ
- 14日 休日当番医
- 17日 前期総合防災訓練
- 20日 癒しのイベント
- 22日 高校生等一日医師体験(～31日、計10回)
ふれあい看護体験
- 24日 高校生一日看護体験(～8月末日、計11回)
- 25日 薬剤師一日体験(26日)
- 29日 第1回マネジメントレビュー

<8月>

- 1日 薬剤師一日体験(2日)
- 3日 夏休み公開講座「いのちの授業」
- 6日 県立川口北高等学校教員研修(8日)
高校生等一日医師体験(～23日)
- 8日 初任者研修民間企業体験研修受け入れ
- 19日 東浦和駅前健康相談会
- 24日 高校生看護模擬面接会①
- 26日 がん薬物療法学習会
- 27日 医療安全相互評価カンファレンス②

<9月>

- 6日 献血
- 10日 ISO維持審査(～12日)
- 13日 アドラー心理学から学ぶ「勇気づけの子育て」セ
ミナー①
- 14日 ICLS講習会
神根消防署はしご車訓練
- 15日 日本内科学会認定内科救急・ICLS講習会(JU
MECC)
- 18日 川口市保健所立入検査
- 20日 お元気ですか訪問&なんでも相談会①
- 21日 お元気ですか訪問&なんでも相談会②
- 21日 医学部受験模擬面接会①
- 24日 感染対策防止地域カンファレンス①
- 28日 第1回建設委員会総会
- 30日 IPW実習受け入れ(～10/3)
看護部副主任研修会①

<10月>

- 2日 外来患者満足度調査(～3日)
- 5日 高校生看護模擬面接会②
- 10日 キャリアナース研修会①
- 11日 アドラー心理学から学ぶ「勇気づけの子育て」セ
ミナー②
- 12日 市民公開講座(整形外科)→台風のため中止
- 13日 神根地区防災訓練→台風のため中止
- 19日 トリアージ訓練
- 21日 第2回マネジメントレビュー
- 26日 台風19号に被災者支援ボランティア
設計施行業者の選考プレゼンテーション
- 29日 キャリアナース研修会②
- 31日 第36回地域医療懇談会

<11月>

- 8日 アドラー心理学から学ぶ「勇気づけの子育て」セ
ミナー③
- 13日 禁煙イベント
- 14日 世界糖尿病医週刊「糖尿病イベント2019」
高校生他職種体験
- 18日 SDHカンファレンス
- 22日 内科病棟回診&カンファレンス②
- 26日 法人理事会にて建設施行業者決定
- 28日 小児虐待について考える学習会
- 29日 医療安全対策地域連携・医療安全相互評価ラウ
ンド
医療安全相互評価カンファレンス③

30日 埼玉協同病院ウエルカムパーティー
癒しのイベント

<12月>

7日 南部ABブロック保健委員長会議・教育研修センター会議共催学習会
9日 看護部副主任研修会②
13日 アドラー心理学から学ぶ「勇気づけの子育て」セミナー④
21日 医学部受験模擬面接会②
27日 忘年会

■2020年

<1月>

8日 技術部門と事務部門の卒1他部門研修①
9日 技術部門と事務部門の卒1他部門研修②
14日 技術部門と事務部門の卒1他部門研修③
17日 (県南地域)地域まるごと健康づくり・まちづくり活動交流集会
アドラー心理学から学ぶ「勇気づけの子育て」セミナー⑤
18日 建設委員会総会
26日 外国人無料医療相談会
29日 後期総合防災訓練

<2月>

2日 双葉町甲状腺エコー検診
7日 感染防止対策地域合同カンファレンス
10日 卒1看護師シュミレーション研修会
バレンタイン行動
14日 アドラー心理学から学ぶ「勇気づけの子育て」セミナー⑥
15日 第2回医療活動交流集会
18日 八重洲監査法人監査(~9日)

<3月>

9日 献血
14日 ICLS講習会
17日 感染対策防止地域カンファレンス②
23日 第3回マネジメントレビュー

6. 施設基準

■基本診療の施設基準

一般病棟入院基本料(急性期一般入院料1)
 ハイケアユニット入院医療管理料 I
 回復期リハビリテーション病棟入院料1
 緩和ケア病棟入院料1
 入院時食療養< I >
 診療録管理体制加算1
 医師事務作業補助体制加算2 15対1
 急性期看護補助体制加算25対1 5割以上
 夜間急性期看護補助加算100対1
 看護職員夜間配置加算 16対1
 夜間看護補助体制加算
 療養環境加算
 重傷者等療養病棟療養環境特別加算
 栄養サポートチーム加算
 医療安全対策加算 I
 感染防止対策加算 I
 患者サポート体制充実加算
 褥瘡ハイリスク患者ケア加算
 ハイリスク妊娠管理加算
 ハイリスク分娩管理加算
 総合評価加算
 呼吸器ケアチーム加算
 後発医薬品使用体制加算 I
 病棟薬剤業務実施加算 I
 データ加算 2
 入退院支援加算 I
 認知症ケア加算 2

■特掲診療の施設基準

糖尿病合併症管理料
 がん性疼痛緩和指導管理料
 がん患者指導管理料1・2
 がん患者指導管理料ハ
 糖尿病透析予防指導管理料
 乳腺炎重症化予防ケア指導料
 院内トリアージ実施料
 救急搬送看護体制加算
 ニコチン依存症管理料
 療養・就労両立支援指導料
 開放型病院共同指導料
 地域連携診療計画(退院時)指導料
 肝炎インターフェロン治療計画料
 ハイリスク妊産婦連携指導料1

ハイリスク妊産婦連携指導料2
 薬剤管理指導料
 医療機器安全管理料1
 在宅患者訪問看護・指導料及び同一建物居住者訪問看護・指導料
 遠隔モニタリング(持続腸圧呼吸療法指導料)
 遺伝学的検査
 HPV 核酸検出及び HPV 核酸検出(簡易ジェノタイプ判定)
 検体検査管理加算(I)
 検体検査管理加算(II)
 時間内歩行試験およびシャトルウォーキングテスト
 皮下連続式グルコース測定
 コンタクトレンズ検査料 I
 小児食物アレルギー負荷検査
 センチネルリンパ節生検(片側)
 画像診断管理料 I
 画像診断管理料 II
 遠隔画像診断
 CT撮影及びMRI撮影
 冠動脈CT撮影加算
 心臓MRI撮影加算
 乳房MRI撮影加算
 抗悪性腫瘍剤処方管理加算
 外来化学療法加算 I
 無菌製剤処理料
 脳血管疾患等リハビリテーション料(I)
 運動器リハビリテーション料(I)
 呼吸器リハビリテーション料(I)
 がん患者リハビリテーション料
 精神科デイケア「小規模なもの」
 精神科ショートケア「小規模なもの」
 人工腎臓(慢性維持透析1)
 導入期加算1
 透析液水質確保加算及び慢性維持透析ろ過加算
 下肢末梢動脈疾患指導管理加算
 骨移植術(自家培養軟骨移植術に限る)
 乳腺悪性腫瘍手術(乳がんセンチネルリンパ節加算 1)
 穿婁閉鎖術等(内視鏡によるもの)
 ペースメーカー移植術・交換術
 大動脈バルーンポンピング法(IABP法)
 肝管悪性腫瘍手術(臍頭十二指腸切除及び肝切除をともなうもの)
 体外衝撃波胆石破砕術
 腹腔鏡下肝切除術
 体外衝撃波膀胱石破砕術
 腹腔鏡下腓体尾部腫瘍切除術
 早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術
 体外衝撃波腎・尿管結石破砕術

胃婁造影術
 輸血管理料Ⅱ
 輸血適正使用加算
 貯血式自己輸血管理体制加算
 人工肛門、人工膀胱造設術前処置加算
 麻酔管理料Ⅰ
 麻酔管理料Ⅱ

7. 教育研修指定関係

1. 日本内科学会認定制度教育病院(1992.4.1)
2. 日本小児科学会専門医研修施設(2003.10.1)
3. 日本皮膚科学会認定専門医研修施設(1993.4.1)
4. 日本精神神経学会精神科専門医制度研修施設
(2006.4.1)
5. 日本外科学会専門医制度修練施設(1988.1.1)
6. 日本整形外科学会研修認定施設(1989.11.7)
7. 日本産科婦人科学会専門医制度専攻医指導施設
(1997.4.1)
8. 日本病理学会研修登録施設(1996.4.1)
9. 日本リハビリテーション医学会研修施設(2005.9.10)
10. 日本糖尿病学会認定教育施設(2000.11.27)
11. 日本リウマチ学会教育施設(2010.9.1)
12. 日本消化器内視鏡学会指導施設(2006.12.1)
13. 日本臨床細胞学会認定施設(2003.9.30)
14. 日本プライマリ・ケア学会認定医研修施設(2000.12.1)
15. 日本家庭医療学会後期研修プログラム認定(2009.4.1)
16. 日本がん治療認定医機構認定研修施設(2010.11.1)
17. 日本胆道学会指導施設(2014.4.1)
18. 日本超音波医学会認定超音波専門医研修施設
(2015.4.1)
19. 日本麻酔科学会麻酔科認定病院(2014.4.1)
20. 日本消化器病学会認定施設(2016.1.1)
21. 日本呼吸器学会認定施設(2016.12.9)
22. 日本脳卒中学会研修教育病院(2018.1.1)
23. 呼吸器外科学会呼吸器外科専門医合同委員会呼吸器
外科専門医制度関連施設(2010.4.1)
24. 日本透析医学会専門医制度教育関連施設
(2010.11.26)
25. 日本乳癌学会認定医専門医制度 関連施設
(2013.1.1)
26. 日本消化器外科学会専門医制度関連施設
(2013.4.1)
27. 日本肝臓学会専門医制度関連施設(2014.4.1)
28. 日本小児神経学会小児神経専門医研修関連施設
(2014.10.5)
29. 認定輸血検査技師制度指定施設(2012.4.1)
30. 日本循環器学会認定循環器専門医関連施設
(2017.4.1)
31. 日本手外科学会関連施設(2016.7.1)
32. 日本在宅医学会認定専門医制度研修施設(2011.4.1)
33. 日本膵臓学会認定指導施設(2020.1.1)
34. 日本腹部救急医学会腹部救急認定医・教育医制度認
定施設(2020.1.1)

(括弧内は認定年月日)

